

渋谷川・古川流域連絡会議事録(第5回)

開催日時 平成14年10月29日(火)13:30～15:30

開催場所 渋谷区勤労福祉会館



第5回 会議風景

議事

平成14年10月29日(木)午後1時30分から、渋谷区勤労福祉会館において、第5回の渋谷川・古川流域連絡会を開催しました。都民委員10名、行政委員11名が出席し、「流域マップについて」、「渋谷区の街づくり計画について」、「合流式下水道について」、「渋谷川・古川河川整備計画の原案について」を議題に、都民委員と行政委員による意見交換を行いました。

第一の議題として、「流域マップ」について、事務局から説明しました。

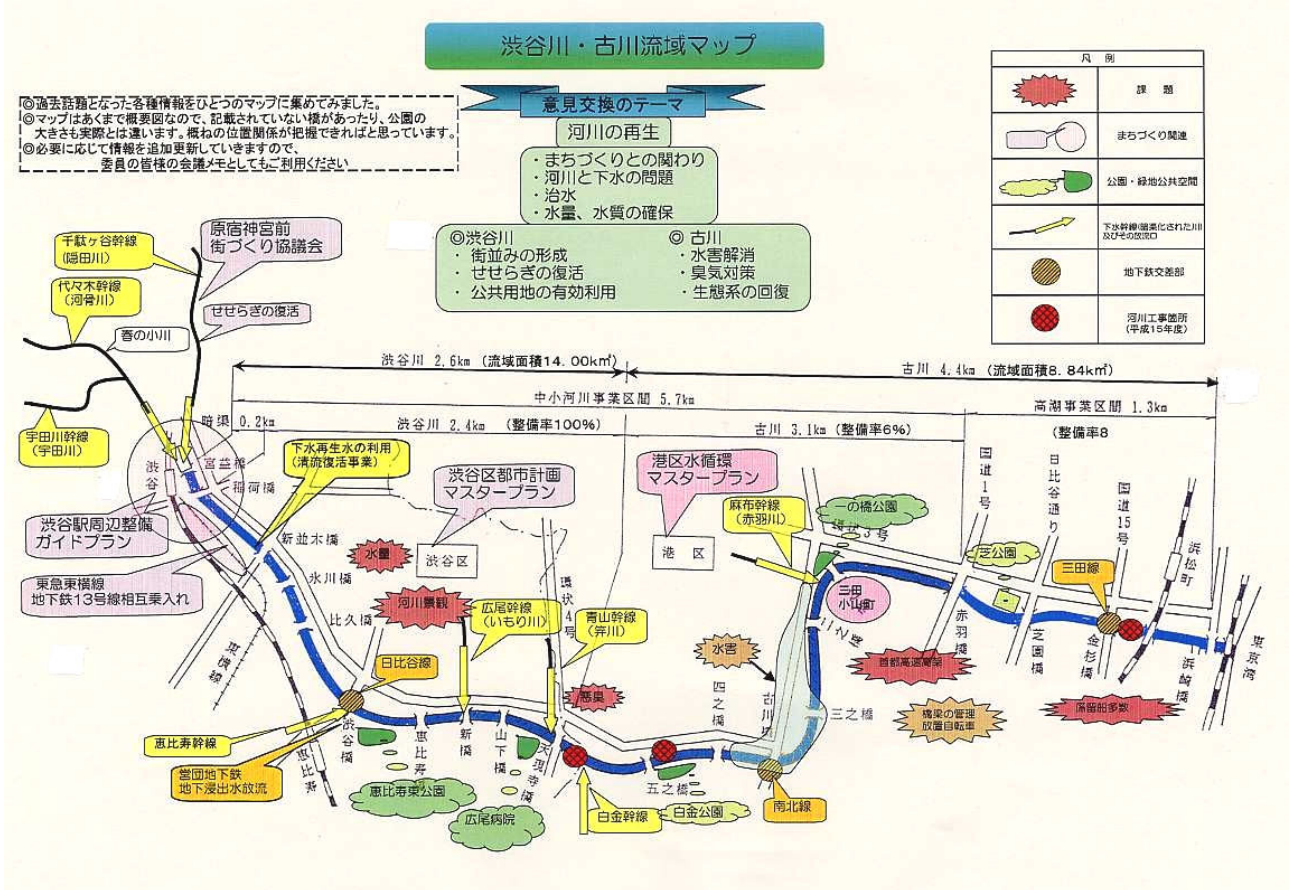
テーマを絞って議論をしていくための参考になるよう、過去4回、皆さんからいただいた意見を一つの絵にまとめてみました。記載内容は、以下の通りです。

各流域での課題として、上流側から水量の確保、河川景観、下水の放流による悪臭、治水対策、首都高速道路等景観の問題、係留船の取扱い等を記載しました。

街づくり関連として、最上流部の原宿の街づくり協議会、渋谷駅周辺の街づくりガイドプラン、13号線接続による東横線地下化、高架部分の将来も含めて取り上げています。また、渋谷区では「都市計画のマスタープラン」、港区では「水循環のマスタープラン」、「三田小山町の再開発」を記載しました。

その他の情報として、周辺の公共空間をどう取り入れていくかという視点で公園の概ねの位置、下水幹線の概略位置、水質の改善・確保の対策として地下鉄の湧水の活用というのが話題の一つとして出ているので、四箇所の交差位置を示しました。

話題の総括として、渋谷川については、町並みの形成、公園等公共用地の有効利用をどうしていくのか。対して古川は水害解消、臭気の問題、生態系の回復等を挙げてみました。



第二の議題として、渋谷区の街づくり計画について、渋谷区から「都市計画マスタープラン」及び「渋谷駅周辺整備ガイドプラン 21」の説明がありました。

1. 都市計画マスタープラン

「都市計画マスタープラン」は平成 12 年に策定された都市計画法に基づく法定計画であり、渋谷区の街づくりの基本となる憲法のようなものとして策定しました。なお、計画期間は概ね 20 年、目標人口は 20 万人を想定して策定しました。

都市計画マスタープランの 4 つの役割

渋谷区の今後の街づくりの指針

区民の街づくりへの参画する際の指針

企業が参画する際の指針

国、関係機関、他の自治体への協力要請をする際の指針

2. 渋谷駅周辺整備ガイドプラン 21

「渋谷駅周辺整備ガイドプラン」は、渋谷区都市計画マスタープランに基づいて、特に渋谷駅の周辺について、地下鉄 13 号線の整備、東急東横線の相互乗り入れ、国道 246 号線明治通りの基盤施設の整備等、渋谷駅周辺の街づくりの動きに対応して、区が担うべき具体的な役割や、整備方針などをまとめたガイドプランです。

ガイドプランでは、渋谷駅の東口広場と西口広場の 2 箇所を中心として位置づけ、整備コンセプトや必要な基盤施設などの課題とともに、渋谷駅の将来イメージについても整理しています。

なお、ガイドプランを取りまとめるにあたってはシンポジウムを開催して、地域の皆さんとの活発

な意見交換を行っています。

第三の議題として、合流式下水道について、東京都下水道局から説明しました。

下水道の役割は、生活排水の改善、水洗トイレへの対応、雨水による浸水対策等で、これらの役割を同時に早く達成するためには合流式下水道が有効とされています。

合流式のメリットは弱い雨では堰を超えず、全量処理場で処理されるということで、雨の降り始めの犬の糞やタイヤの削りかすなどの汚物は処理場で処理できるということです。その反面デメリットとして、堰を超えるような大雨の時は、浸水を防ぐために川の方へ下水の一部を放流するということです。

現在、分水堰が低いところを嵩上げて処理場へ流す量を多くする、それと同時に処理場へ繋ぐ管を増強することにより、雨天時であってもできるだけ多くの雨水を処理場へ送っていこうという事業を行っています。また、処理場で処理できない分を川に流さず、地下に大きなコンクリートのタンクを作って、そこに雨水を貯める貯留施設を整備しています。

貯留施設の整備等には時間がかかるということで、現在、緊急合流改善事業を進めています。これは、下水、川が整備され、水辺に近づくことができるようになり、逆に水辺の汚れが目立つようになってきたということが背景にあり、「クイックプラン」といって少しでも早く整備の効果を出そうと緊急対策が策定されています。

第四の議題として、「渋谷川・古川河川整備計画」原案の概要及び現状の課題部分について、建設局河川部から説明を行いました。

第1章 流域や河川の現況について

渋谷川・古川は渋谷川宮益橋を經由して渋谷区港区の市街地を通って海に注ぐ2級河川で、全長7km、流域面積22.4k㎡の河川です。

淀橋浄水場が明治31年に造られるまでは江戸時代から250年間、玉川上水の水が河川の方に流れており、水の量が豊富であり、渋谷川には宇田川、隠田川、河骨川が注いでいたが、S30～40年に埋め立てられて下水道幹線となった。

流域の自然環境は、大正、昭和と緑がだんだん減ってきています。水質は、現在の水質基準でBODが8mg/l以下ということになっているが平成5年はこれを上回る汚れとなっています。平成10年から平成12年では概ねほぼBODの値が2～4mg/lの間で納まっています。地形地質は、流域が台地の末端に位置しており、かつては渋谷川古川が台地を刻んだのがわかります。また、流域には首都高速、主要道路、例えば明治通り、JR、地下鉄があり、川沿い、川の上にも下にも道路や鉄道が作られています。また、浸水実績があるような所にも鉄道、道路が通っていることがわかります。

次に、江戸時代から現在に至る渋谷川、古川の変化、流れをまとめています。江戸時代から安藤広重、葛飾北斎が渋谷川付近の様子を描いています。明治初期の三之橋付近の様子は写真で見ますと今よりも川幅が非常に広く、川沿いに木がたくさん茂っており美しい川でした。大正になると、沿川は市街化が進み、工場、商店、住宅が立ち並ぶようになり、昭和30年前後の古川金杉橋では台場に海水浴や潮干狩りに行く船が出ていました。現在は、街が川に背を向けてしまっている状況です。

沿川の主要な街づくりは現在、三田小山町の再開発、芝一丁目の開発事業が進んでいます。

沿川の浸水実績について、狩野川台風などの浸水実績を示しました。治水への取り組みの経緯について、江戸時代に行われていた舟運のための浚渫、昭和初期の改修事業等について示しました。

河川環境という観点から課題を取りまとめると、川に近づけない、川との係わり合いが少ない、自然

や潤いが感じられない、安全な川になっていない等の課題が挙げられます。

意見交換

(都民委員) 渋谷駅東口の整備方法については、具体的に検討しているのか。

(行政委員) 東急東横線が地下化された後の土地利用については、地権者の東急電鉄とともに今後ガイドプランを整理する中で検討していく予定です。

(都民委員) 宮下公園の現状は上が公園、下が地下駐車場となっているが、今後、宮下公園はあのままなのか。

(行政委員) ガイドプラン21の経過報告にあるように、渋谷駅2階からデッキを差し出して宮益橋の交差点の所を横断して、即ち旧渋谷川の上をデッキにより宮下公園の2階と接続する形で整備したい、という考えでまとめていると聞いています。

(都民委員) 貯留管の完成はいつになるか。また、古川橋付近の水害がそこに集中しているが、原因を把握しているか。

(行政委員) 完成年度については、河川と調整しながら取り組んでいるところなので、明確にお答えすることはできない。

(行政委員) 原因については、もともと地形的な特性で水害が起りやすい場所が川沿いにあると思われます。雨の降り方にもよるが、川が蛇行していたり、土地が周りより低いというのが原因であると思われます。対策としては通常であれば川を拡幅するという形をとるが、古川の場合は民家が川の近くまで建っているということで、その対応が非常に困難であるため、貯留施設を造ろうということで取り組んでいます。これについては、現在計画を検討しているところであり、いつ着手、完成とはいえない状況です。現地を細かく見ると護岸が部分的に低いところがあり、このようなところは改修工事に併せて嵩上げ等を実施していきたい。

(都民委員) 貯留管に溜まった水を、汲み上げて川に流すというのはおかしくないか。

(行政委員) 河川に戻すのは河川から溢れて貯留管に入った水だけであり、下水は川へ流さないでそのまま処理場の方へ流します。

(座長) これまで5回流域連絡会を行ってきて、問題点や課題などの情報を共有できたと思います。事務局作成の「マップ」もそういう意味でよくまとめてもらっています。次回からはもう少し先に進めて、皆様から渋谷川・古川をこういうふうにしたいという意見要望をもらって進めていきたい。渋谷川については街並みの形成、公共用地の有効利用、古川については水害の問題、下水の臭気の問題が主なもの

であると思います。次回までに、渋谷川・古川をこうしたいというのをまとめて議論していきたい。

この他に、次のような意見がありました。

- ・宮下公園とその延長線上にあるせせらぎの復活というものを、ぜひ一体的にできるように検討してもらいたい。
- ・貯留管に溜まった水をポンプで汲み上げるのであれば、川に戻さなくても植え込みの散水などに使えばいいのではないか。